

第6次基本計画策定専門調査会
安全・安心ワーキンググループ（第3回）議事要旨

1. 日 時 令和7年4月30日（水）17:00～19:00
2. 場 所 中央合同庁舎第8号館8階816会議室
3. 出席者

座長	小西 聖子	武蔵野大学学長・人間科学部教授
座長代理	多賀 太	関西大学文学部総合人文学科教授
構成員	浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員
同	飯島 裕子	桜美林大学健康福祉学群准教授 ノンフィクションライター
同	小川 真理子	東京大学多様性包摂共創センター(IncluDE) ジェンダー・エクイティ推進オフィス副オフィス長 特任准教授
同	藤森 克彦	日本福祉大学福祉経営学部教授 みずほリサーチ&テクノロジーズ主席研究員

【議事】

- (1) 第126回女性に対する暴力に関する専門調査会（令和7年4月11日）における議論の報告
- (2) 池田恵子氏（「令和6年度男女共同参画の視点からの能登半島地震対応状況調査検討会」座長）プレゼンテーション
- (3) 意見交換

【資料】

- 資料1-1 第6次男女共同参画基本計画策定に向けた検討状況について
資料1-2 女性に対するあらゆる暴力の根絶に関する今後の取組について
～「第126回女性に対する暴力に関する専門調査会」（令和7年4月11日）における主な意見～
資料2 能登半島地震対応状況調査概要

【全体の議事の概要】

1. 第126回女性に対する暴力に関する専門調査会（令和7年4月11日）における議論について、事務局より報告を行った。
2. 池田恵子氏からプレゼンテーションがあった。
3. 上記を踏まえ、意見交換を行った。主な意見は後述のとおり。

【意見交換】

1. DVや性犯罪・性暴力の防止と被害者支援について

- ・ DVや性暴力の対応に当たり得る人への研修が重要である。教員、医師、司法関係者等の養成課程からジェンダーや性暴力に関する学びを取り入れる必要がある。また、医療関係者の中で、薬剤師も重要な役割を担っているため、研修対象に含めることが望ましいのではないかと。そのほか、DVや性被害に遭った在外邦人等への対応のため、関係者への研修も必要。
- ・ 幼児期から大人に至るまでの各年代への教育啓発等の推進も必要。「生命（いのち）の安全教育」について、内容面の充実を図るとともに、更なる普及のための実効的な手段を検討することが重要。

2. 貧困等生活上の困難に対する支援と多様性を尊重する環境の整備について

- ・ 賃金格差の解消等、高齢期に貧困に陥らないための施策については書き込まれているが、身寄りのない高齢者や今現在困っている高齢者についての支援施策等を検討してもらいたい。
- ・ 高齢期の女性の貧困、単身中年女性が抱える課題等、女性支援新法で支援の対象となるような女性が抱えている困難について、実態を把握するための調査等を行ってほしい。
- ・ 女性支援新法の支援対象は、DV等の被害者だけではなく、経済的に困窮した方々等も含まれ、全ての女性が利用できる制度であることを更に周知する必要がある。
- ・ 父子世帯については地域のつながりが弱いなど、母子世帯とは別の課題も抱えていると思われる、その観点の対策も必要。
- ・ 支援に当たっては、経済的困窮や就労支援に関する相談窓口やDV相談窓口など、どの相談窓口が入り口となった場合でも各担当が連携できることが重要。経済的困窮に関しては住宅セーフティネット制度における相談支援等も考えられるのではないかと。
- ・ 女性相談支援員について、市・区への配置率等、支援の実施体制の確立に関する施策が必要。

3. 防災・復興における男女共同参画の推進について

- ・ 地域防災計画に発災時の男女共同参画センター等の役割を記載するよう促したほうが良いのではないかと。
- ・ 消防大学校や防災スペシャリスト養成研修等の防災に携わる人材の養成過程で、男女共同参画の視点からの防災に関する研修機会を確保することも必要。
- ・ 防災において、障害のある女性や外国にルーツのある女性等のインターセクショナル리티の視点も考慮すべき。

4. その他の意見

- ・ 学術分野や研究機関での女性研究者の採用・登用推進に関する事項が抜けないように検討していただきたい。また、大学や研究機関の男女共同参画推進室等、ダイバーシティやジェンダー平等の推進に従事する教職員等の雇用が不安定な状況では、女性及び若手研究者等への支援も十分にできないため、学術分野等でジェンダー平等を推進する人材の雇用の安定化についても検討していただきたい。
- ・ 「共育て」という言葉について、子どもを持たない方の当事者性が薄くなるという懸念も理解するが、父や母のみが共に育てるのではなく、周りの人々や社会も含めて「共に」育てるというコンセプトに広げられたら良い言葉だと感じる。

以上